

気づき、考え、実行する さし人つうしん



学校HP

唐津市立佐志小学校
学校だよりNO.22
令和6年2月27日
文責：校長 松野克己

5年生 環境学習+ワカメ収穫



昨年度スタートした佐志小・からふさ研究会(唐房漁協)・水産振興センター・市政戦略課・九州大学・JALの連携による環境学習を今年度も2月20日(火)に行いました。5年前、海洋教育の一環として地元の漁業関係者の方のご厚意で始まったワカメの養殖が、食用としてだけでなく、ブルーカーボンとして気候変動への対応にも深く関わっていることから、この連携が始ま

ったわけです。今や佐志小の特色ある取組となりました。

この日も、前回に引き続き、九州大学の早淵准教授から、地球温暖化につながる二酸化炭素の削減にワカメなどの海藻が大きな役割を果たしていること(カーボンニュートラル)など、環境問題についてのお話をいただきました。カーボンニュートラルとは、排出される二酸化炭素量が、植物などによって吸収される量より多い状況を、同じ量に近づけていく取組なんだそうです。ちょっと調べて見ると、海藻などの二酸化炭素吸収率は陸の植物の2.5倍程度もあるということで驚きました。JALからは、チケットレスの取組や、空港で働く飛行機の誘導や貨物の積み込み、整備士といったあまり知られていない仕事について教えてもらいました。個人的には、1月2日に起きた羽田空港の事故で一人も乗客に負傷者がいなかった対策や対応なども、少し教えて



欲しかったのですが・・・。

お話を聞いた後、1月24日(金)に種付けをしたワカメの収穫を行いました。左の写真のようにからふさ研究会の漁師さんにロープごとワカメを上げてもらい、それを水揚げ場に移動してはさみで次々に切り離して収穫しました。最初は戸惑う児童が多かったのですが、徐々にペースが上がり、夢中で収穫していました。メカブがたくさん残っていたのですが、後からそのメカブだけを集めている子もいましたね。



ビニール袋いっぱいのワカメを両手に抱えて一旦学校に戻った後、人工海浜のゴミ拾いを行いました。前回に比べると風の影響か、ゴミの量は少なかったのですが、やっぱりプラスチックのゴミが目につきました。そのほとんどは人間が捨てているわけで、やはり一人一人が環境美化の意識を高めることが大切ですね。また、環境とともに、佐志という故郷の漁業という産業への関心や、お世話になった関係者のみなさんへの感謝という気持ちも育ってくれることを期待しています。



この時の様子はQRコードで動画視聴ができます。

「からとぴWEEKLY」

30分10秒から再生してください。



4年ぶりに全校そろうった「6年生ありがとう集会」

ほとんどの小学校では、6年生への感謝を伝える「6年生とのお別れ集会」を行っています。卒業式が儀式的行事であり、緊張感に包まれたものである一方、この集会は笑いや拍手のある温かみが前面に感じられる内容になっています。本校でも続けてきたものの、6年生に各学年の出し物をビデオで見てもらったり、同じく学年ごとに体育館で出し物を披露したりと、コロナの影響を大きく受けてきました。

今年度は本来の全校児童が体育館に集まったの集会を実施できました。どの学年も工夫を凝らした出し物で、在校生は6年生への、6年生は在校生への感謝が伝わってきました。職員からも「みんなが一同に介しての集会は感動の度合いが違う」といった言葉が聞かれました。



4年生合奏「茶色の小びん」



3年生替え歌「ハルカ」



2年生ダンス「学園天国」



1年生「さしっ子応援団」



5年生「感謝のメッセージ」



6年生「マツケンサンバ」